

第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

① 第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

② 評価調査者研修修了番号

SK2021096

S2021052

神機構-1117

③ 施設名等

名称	しらかば子どもの家
施設長氏名	小林 容子
定員	40名
所在地(都道府県)	神奈川県
所在地(市町村以下)	
T E L	
U R L	

【施設の概要】

開設年月日	2011/4/1
経営法人・設置主体（法人名等）	社会福祉法人誠心会
職員数 常勤職員	27名
職員数 非常勤職員	5名
有資格職員の名称（ア）	児童指導員
上記有資格職員の人数	11名
有資格職員の名称（イ）	保育士
上記有資格職員の人数	10名
有資格職員の名称（ウ）	栄養士
上記有資格職員の人数	1名
有資格職員の名称（エ）	看護師
上記有資格職員の人数	1名
有資格職員の名称（オ）	心理士
上記有資格職員の人数	1名
有資格職員の名称（カ）	
上記有資格職員の人数	
施設設備の概要（ア）居室数	男子寮、女子寮 各Aフロア7室、Bフロア6室 計26室
施設設備の概要（イ）設備等	ホール、子育て支援室、親子支援室
施設設備の概要（ウ）	心理療法室、医務室、静養室、食堂
施設設備の概要（エ）	

④ 理念・基本方針

<運営理念>

・「みんないっしょ」の養護・保育・教育
社会的養護の重責を担う施設として、要保護児童の最善の利益確保に向けて、法人が一体となって全ての専門職種の職員力を結集して、効果的・効率的な施設運営を進めます。

<運営方針>

・要保護幼児及び児童の人権に配慮した援助と個別の自立支援計画により、それぞれの目標に向けた養育・支援を懇切丁寧に行います。
・そのために必要な全ての職員の専門性及び資質の向上に努めます。

⑤ 施設の特徴的な取組

○月1回、フロアごとに「こども会議」を開き、施設からのお知らせや、子どもたちからあがった要望への対応方法を伝えたりしている。「こども会議」では、土・日曜日や、夏・冬休みの過ごし方などを話し合い、買物やプール、宿泊旅行などにつなげている。子どもたちからは、食事の希望が多くあがるため、「意見箱」の他に、食に関しての「要望箱」を新たに設置して、献立に反映している。
○町内会が活発に活動し、今年から子供会も復活して、お祭りやドッジボール大会、運動会、ハロウィン、もちつき、どんど焼き、ラジオ体操など、さまざまな行事が開催されている。子どもたちから参加の希望がある時は、職員が付き添って参加している。学習ボランティアも多く、毎日のように小・中学生の学習を見ている。地域の方たちと触れ合うことにより、子どもたちは社会性を身に付けている。

⑥ 第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2023/6/1
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2024/2/20

⑦総評

○「みんないっしょの養護・保育・教育」の運営理念のもと、小規模グループケアを実践している。子どもたちは、2階の男子寮と3階の女子寮で生活している。それぞれの寮は、2つのフロアに分かれている。「愛着の形成」と「大人との信頼関係の構築」を目指して支援している。

○小学低学年以下の子どもは3～4人の部屋で、他の子どもは、すべて個室を使用している。小さい子どもの部屋も、それぞれベッドがあり、自分のスペースを確保できるようにしている。子どもたちは、好きなぬいぐるみを置いたり、アイドルの写真を貼ったりして、居心地の良い空間を各自が作り上げている。

○入所時には、児童相談所のケースワーカーが「権利ノート」を使い、子どもの権利について説明している。今まで自分の思っていることを言うことができなかった子どもが多いことから、日々の生活の中で、思うことは言っていること、自分の好きな物を選んでいいことなど、職員が話をしている。

○職員一人が子ども2～3人を担当する担当制をとっている。子どもの生育歴や入所の経緯については、全職員が把握して支援に取り組んでいる。複雑な課題を抱えた子どもたちは、大人から愛情を受けたことがなく、職員のやさしさを素直に受けることができないことが多い。そのため、感情の爆発が職員に向うことがあるが、職員は子どもの気持ちを受け止め、思いを聞くことを第一として支援している。

○自分の生き立ちを知ることは大事なことであり、子どもの状況や家庭の状況などを考慮しながら、慎重に行わなければいけないと捉えている。伝えるタイミングは、児童相談所と話し合いの上決めている。

○暴言や暴力など、子どもが不安定になることがあり、職員に向ってくることもある。職員に手をあげたりすることもあるが、あくまでも子どもの話を聞く姿勢をとっている。職員を交代して対応したりしながら、子どもの気持ちが落ち着いてから話を聞くようにしている。子どもが今どういう気持ちなのか、子どもの声を聞くことを基本としている。

○子どもの気持ちを聞くことを大切に、子ども同士のトラブルは、お互いの気持ちを聞き、お互いがごめんなさいが言えるように関わっている。暴力はいけないこと、暴力をなくす支援を行っている。子どもたちが相手の気持ちを思いやることができるよう支援している。

○子どもたちのリクエストを献立に反映し、喜んで食べてもらえるようにしている。また、ハロウィンやクリスマスなどの行事食を手作りして、見た目もかわいい料理を提供し、子どもたちに喜んでもらっている。地域のレストランやホテルからの招待もあり、子どもたちは様々な料理を楽しみ、社会のルールを学んでいる。栄養士が協力して、寮内でビザ作りなどのクッキングもやっている。

○中学3年生は、高校進学の前に、本人とどうしたいかを話し合う機会を作っている。高校2年生くらいからは、卒園後の自立した生活を、職業指導員と話し合っている。児童相談所や学校、職業指導員の連携のもと、生活面や金銭面の課題を本人に伝えながら、本人が自己決定できるよう支援している。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

無事に第三者評価を終えまずは安心しました。
 日々の生活に追われながらも、子どもにとって何が大事なのかを常に考えながら仕事をしているつもりでも、自己評価の内容をひとつひとつ確認していくと、「これもやっていなくては。これも考えなくては。こういうことも必要。」など、考えなくてはいけないことがたくさん出てきたように思います。
 とにかくできることからひとつひとつ考え、行動にうつしていかなければいけないと思っています。
 我々大人が子どもに向き合っていく姿勢を考えていく中で、ひとつのヒントになる良い機会になったと思います。

⑨第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者 評価結果
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	b
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	

【コメント】

理念や基本方針は、月1回開催する職員会議で、職員にあらためて周知している。年度が変わる3、4月の職員会議は全職員が出席しているので、その時に話をしている。法人内の全事業所の概要や法人の理念などを「社会福祉法人誠心会みんないっしょ」のファイルにまとめ、全職員に配布している。月1回開催する寮会議の中で、内容の読み合わせを行っている。理念や目標、計画は、子どもたちのフロアにも掲示して周知に努めているが、確認している様子は、あまり見られない。保護者の面会は少ないが、訪問時に理念などを説明している。

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	第三者 評価結果
<p>① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。</p> <p><input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。</p>	<p>b</p> <p></p> <p>○</p> <p></p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>月1回開催する法人内の施設長会議や、児童相談所も参加する県の施設長会議に施設長が参加して、社会福祉事業全体の動向を把握している。市の児童相談所とは随時情報を交換し、一時保護所の情報や受付状況などを把握するようにしている。必要な情報は、職員会議で職員に周知する他、資料を各寮に配布している。課題については、月1回の主任・副主任会議で検討し、寮会議につなげているが、今後は職員全体で検討、分析する必要があると捉えている。</p>	
<p>② 3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。</p> <p><input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。</p> <p><input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。</p>	<p>b</p> <p></p> <p>○</p> <p></p> <p></p>
<p>【コメント】</p> <p>家庭的養育推進計画の見直しの時期を迎えているため、市の動きなどを確認して対応していく予定である。児童養護施設の小規模化や地域分散化に対して、どう対応していくか、今後の課題としている。理事会や法人の施設長会議の場で、改善すべき課題は明らかにしているが、職員全体への周知までには至っていない。</p>	

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果
<p>① 4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。</p>	<p>b</p> <p></p> <p></p> <p></p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p>	

家庭的養育推進計画の見直しの時期を迎えているため、市の動きなどを確認して対応していく予定である。家庭的養育推進計画の見直しに関連して、市には「施設の小規模化かつ地域分散化に向けた計画」を提出している。改善に向けて、同一市内の児童養護施設の施設長が、市との話し合いに参加している。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	

【コメント】

要保護幼児及び児童への支援として、小規模グループケアの実施を単年度の事業計画にあげている。ただし、すべての職員の意見を反映して作成してはいたないので、次年度は、職員の声や意見を反映して、事業計画を作成していきたいと考えている。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)がされており、理解を促すための取組を行っている。	

【コメント】

12月から1月にかけて、主任・副主任会議で意見を聞いて、施設長が事業計画の見直し案を作成している。3月の法人の理事会に諮り、4月の職員会議で、職員に内容を説明している。子どもや行事の担当など、基本的な部分の変更はないが、次年度は細かいグループに分かれて話し合いを行い、職員の声や意見を計画に反映する予定である。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすい工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	

【コメント】

事業計画書をそれぞれのフロアに置き、子どもたちがいつでも手に取ることができるようにしているが、子どもからは特に質問などはあがっていない。月1回、2階と3階にわかれて「こども会議」を開催し、行事などの予定を説明している。子どもたちは複雑な背景を背負って入所しており、生活の様子を知らせることのできない保護者もいる。事業計画のうち、行事の案内は面会時に行い、施設行事の「あしたば祭」についても、保護者には特に案内は送付していない。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	第三者 評価結果
--------------------------------	-------------

①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	

【コメント】

年1回の自己評価や、3年に1回の第三者評価を基準通り実施して、質の向上に取り組んでいる。子どもたちのヒアリングは、人権委員会の職員が聞き取りを行っているが、意見があまり上がらないため、今年度は心理職が質問の内容を決め、子どもたちの冬休みの期間に、第三者委員にヒアリングを依頼する予定である。人権委員会作成の「子どもとのかかわりハンドブック」を職員に渡しているが、内容の振り返りが必要と感じている。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	
<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	○	

【コメント】

年1回、9～10月頃に職員との面談を行っているが、今後は5月位にも面談し、前年度の振り返りなどを行っていきたいと考えている。職員に伝えなければいけないこともあり、施設長が寮会議にも出席して、課題を共有するようにしていきたいと考えている。最近、子どもたちに落ち着きがなく、職員への暴力につながることもあるので、職員へのフォローも必要であると考えている。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。	第三者 評価結果	
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	

【コメント】

職員会議や食生活会議に施設長が出席し、施設長から伝えたいことを職員に話をしている。年2回、後援会と一緒に広報誌「あしたば」を発行し、施設長も執筆している。広報誌「あしたば」は、町内会や後援会、児童相談所などの関係機関に配布している。施設長の不在時は、主任、副主任に権限を委譲している。コロナ禍では、その都度対応が変わるため、施設長の個人の携帯で、対応を指示することもある。子どもたちの生活の場は、できるだけ回るようにしている。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○

	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	

【コメント】

県や法人の施設長会議や、国の施設長研修などで遵守すべき法令を理解し、職員会議や主任・副主任会議で情報を職員に伝えている。毎日、午後の時間に「引き継ぎ」の場を設けており、施設長も参加して、早めに伝えたい情報は、そこで話をするようにしている。「引き継ぎ」には、心理の職員や看護師も参加している。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	<input type="radio"/>

【コメント】

施設長の研修や行政の資料、インターネットの情報などで、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。子どもたちの居室にはエアコンがないため、コロナ禍の時期や夏場は、子どもたちが大変な思いをした。エアコン設置の助成金なども調べて、現場に伝えるようにしている。養育・支援の質の向上の取り組みは、上からの指示ではだめで、現場からの声や取り組みが大事と捉えている。向かうべき方向は同じであることを、職員に伝えている。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。		

【コメント】

国のビジョンや市の動向については、主任・副主任会議や、面談時にベテランや経験のある職員に話をしている。施設の小規模化が進むと、職員の泊りが増えたり、職員個々が判断しなければいけない場面も増えて、職員の負担も大きくなる。職員一人ひとりが強い心を持ち、小規模児童養護施設で働いていけるよう、育成に取り組む必要があると考えている。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		第三者 評価結果
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	

<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	
<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	
(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○

【コメント】

法人内の事業所はそれぞれ勤務形態が異なるため、職員の募集は施設単独で行っている。採用担当を施設長として、男性職員の面接には男子寮の主任、女性職員の面接には女性寮の主任も同席している。求人はハローワークやインターネット、人材紹介会社などを活用して行い、職員の定着は安定しているが、退職予定者もいることから課題もある。断続勤務ではなく、早番、遅番、泊りの勤務形態を採り入れている。職員ができるだけ長く勤務できるよう取り組んでいる。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。	
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	

【コメント】

法人の主任会議などで、人事考課は必要との声もあがっているが、一定の評価は難しい面もあるため、現在、人事考課は取り入れていない。人員の配置などは、職員会議で、職員に説明している。期待する職員像は明確ではないが、子どもの話をよく聞き、まずは安全な場所を提供すること、子どもの話を聞くだけでなく、違うところははっきり違うと話すことができる職員であってほしいと思っている。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	○

【コメント】

産休や育休に配慮しているが、復帰後のポジションの確保に難しさを感じている。職員との面談は、年度初めの面談も職員全員と行う予定である。面談では意向調査シートも用いている。働きやすい職場作りとしては、断続勤務は職員の負担も大きいので最初から取り入れていない。また、職員が意見を言いやすい職場になるよう心がけている。内部研修も、その時に困っているテーマを取り上げて、タイムリーに企画、開催できるようにしている。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
---	----------------------------	---

	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	

【コメント】

意向調査を実施して、職員の意向を取り入れてモチベーションを保つようにしている。職員からは、別の寮や元の寮を担当したいという希望などがあがるが、すべてに対応することはできないので、解決できることから取り組んでいる。職員個々の目標管理の仕組みはできていないので、今後の課題としている。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	

【コメント】

施設長と心理士が研修計画を策定している。内部研修は回数を決めず、必要に応じて、それぞれの寮で今課題になっていることをテーマにして開催している。最近では、摂食障害の研修会を開催している。年2回、児童相談所が開催する研修会には定期的に参加している。外部研修も、施設長と心理士が参加者を決めている。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	b
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	
	(社会的養護共通)	
	<input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	

【コメント】

研修計画の中で、経験に応じた外部研修に参加できる機会の確保に努めている。コロナ禍でzoomによる研修が多かったが、現在、集合研修も元に戻りつつある。職員が年1回は外部の研修に参加できるようにしている。外部研修に参加した職員は研修報告書を提出し、職員会議で内容を報告している。現在、主任や副主任がスーパーバイザー的役割を担っているが、現場の職員からも外部からのスーパーバイザーを希望する声があがっていることから、スーパーバイザー探しているところである。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○

<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

主任と副主任が窓口になり、実習生の受け入れを行っている。コロナ禍でもほぼ例年通りの受け入れを行っている。実習生は積極的に受け入れ、年間に保育の専門学校や短期大学から12～15名、社会福祉士や心理士を目指す学生2～3名が実習している。職員も後進を育てることを役割と捉え、積極的に対応している。実習を終えた学生が就職することもあり、今後も同じくらいの人数の実習生を受け入れていく予定である。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	第三者 評価結果
① 21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b
<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の有存在意義や役割を明確にするように努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	<input type="radio"/>

【コメント】

ホームページやパンフレットで、運営の透明性を確保する情報の公開を行っている。後援会と一緒に広報誌「あしたば」を発行し、関係機関に配布する他、地域の方々にも広く配布している。10月に「あしたば祭」を開催して、日頃お世話になった人や町内会、学校の先生、児童相談所などの関係機関を招き、施設の様子を見てもらっている。

② 22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	b
<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	<input type="radio"/>

【コメント】

市の監査や内部監査などで、公正な経営や運営に取り組んでいる。また、法人として外部の会計事務所から相談や助言を受けられる体制を整えている。内容に応じて、顧問弁護士や社会保険労務士に、いつでも相談ができる体制も整えている。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果
① 23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	b
<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	<input type="radio"/>

	<input type="checkbox"/> 子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	
	(児童養護施設) <input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	

【コメント】

町内会が活発に活動し、今年から子供会も復活して、お祭りやドッジボール大会、運動会、ハロウィン、もちつき、どんど焼き、ラジオ体操など、さまざまな行事が開催されている。子どもたちから参加の希望がある時は、職員が付き添って参加している。学校の友だちの訪問は制限していないが、施設が小・中学校から離れていたり、遊ぶスペースがないことなどから、友だちが遊びにくくは少ない。子どもたちからも、友だちを呼びにくいとの声が上がっている。

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	

【コメント】

ボランティアの係を置き、受け入れを行っている。コロナ禍では一時受け入れを中止していたが、今年から徐々に受け入れを再開している。コロナ禍前は、大学のボランティアサークルの遊びのボランティアや、学習ボランティア、米軍のベースからの訪問を受け入れている。ボランティアの募集は特に行っていないが、希望があれば今後も積極的に受け入れを行っていく予定である。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域に適当な関係機関・団体がいない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	

【コメント】

児童相談所とは年1回、連絡会を開催する他、カンファレンスなどで随時連携している。学校とも連携し、3月には話し合いを行い、新しい先生の施設訪問もある。地域や警察署、消防署の協力、ライオンズクラブとも交流がある。子どものアフターケアについては、職業指導員が担当し、月1回、卒園児と連絡を取り合っている。卒園する子どもの人数が増えていることから、ネットワークの方法や強化をさらに進めていく必要があると捉えている。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	<input type="checkbox"/>
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設のもつ機能を地域へ還元したり、地域の関係機関・団体との連携等を通して、地域の具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	<input type="checkbox"/>

(5種別共通)
地域住民に対する相談事業などを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。

【コメント】

法人として、地域に向けた各事業で、地域との連携を深めている。また、地域の家庭地域ネットワーク会議に参加して、地域のニーズの把握に努めている。地域には大きな公園がなく、子どもたちが思い切り身体を動かす場所が少ない。近くの刑務所の職員待機所が空いており、場所も広いので借りることができないか検討している。ショートステイの利用希望は多く、でき得る限り、受け入れるようにしている。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	

【コメント】

小学校1年の子どもは慣れるまで、職員が学校までの送り迎えをしている。地域との関係は良好で、送迎時には地域の方が声掛けしてくれる。2～3月に、海岸のゴミ拾いのボランティア活動があり、小・中学生がグループに分かれて参加している。町内のお祭りでは、お神輿の休憩場所などの協力を行っている。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。

第三者
評価結果

①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○

【コメント】

「子どもとのかかわりハンドブック」と、県の「養育支援ブック」を合わせて、子どもを尊重した養育支援の基本としている。年2回、子どもたちにヒアリングを行い、その内容を職員会議などで共有している。子どものヒアリングは、いつも一緒にいる職員には話しにくいと思っている子どもには、第三者委員に聞き取りを依頼する予定である。

②	29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	○

【コメント】

基本的にプライバシーを守っているが、子どもによって、配慮する場面が異なるので、どの職員も同じ対応を取ることができるよう配慮している。子どもたちは入所時に、児童相談所の担当職員から、「子どもの権利ノート」の説明を受けている。職員は外部や内部研修を受け、プライバシー保護の理解を深めている。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	b
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特徴等を紹介した資料を準備している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	

【コメント】

見学の際には、フロアの職員が丁寧に説明し、「みんなのルール」を使いながら説明している。子どもたちが生活のルールをいつでも確認できるように、「みんなのルール」はフロアに置いている。子どもから質問があれば、職員がその都度説明している。年間行事などは、フロアに掲示して、子どもたちがいつでも確認できるようにしている。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	

【コメント】

子どもの入所時には、児童相談所が中心になり、保護者や子どもに施設の説明をして、入所の同意を得ている。入所後、特別支援級に通う子どもは、児童相談所や学校と連絡を密に取って対応している。保護者には、子どもの生活の様子や近況を伝え、親との関係性をつなぐように努めている。年2回、自立支援計画を策定しており、その際には、子どもと話をしながら、希望などを確認して策定している。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	

【コメント】

措置変更や家庭復帰に向けて、自立支援計画策定時に継続的な配慮ができるよう、児童相談所と確認し合うようにしている。担当職員が窓口になり、保護者の相談にのったり、児童相談所に報告をしたりしている。退所後の連絡は、児童相談所や職業指導員が中心になり、月1回、電話で行っている。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者
評価結果

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	

【コメント】

子どものへのヒアリングの際に、施設での生活の満足度などを確認している。施設内に「意見箱」を設置し、子どもの声を聞いている。子どもたちからは、食事についての希望が多いため、食に関しては、「要望箱」を新たに設置して対応している。「意見箱」の投書内容については、月ごとにまとめ、子どもたちに回答している。意見に対する分析や検討は不十分と感じることもあり、今後は改善していく必要があると捉えている。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

子ども会議での話し合いや、意見箱、要望箱を設置し、苦情受付の仕組みを整えている。子ども会議はフロア別に小・中・高校生で年代を分けて行い、会議の中でルールへの要望や見直しを求められた場合は、寮会議や職員会議で検討している。フロア毎で替えたルールもあり、子どもたちの要望に柔軟に対応している。職員全体が把握できるように記録し、申し送りをしている。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選ぶことをわかりやすく説明した文書を作成している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

意見箱への投書、「権利ノート」に添付の手紙の利用などを周知している。相談しやすいスペースの確保は環境的に難しく、静養室や心理療室などの空いている部屋を活用するようにしている。日頃から子どもが意見を言いやすい関係性を作る努力をしている。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	<input type="checkbox"/>

<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	
<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○
<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	

【コメント】

個別に意見や話を聞く体制を整え、子どもとの関係作り心がけて対応している。イベントや誕生日、外出は担当職員が同行し、予算内で希望に沿うようにしている。「意見箱」の投書内容については、月に1回、回答している。マニュアルの定期的な見直しは行っていないので、今後検討が必要と捉えている。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。	第三者 評価結果
① 37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネージャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	
<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○
<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	
<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	

【コメント】

事故報告やヒヤリハットは、報告書を作成している。事故報告については、月1回の職員会議で周知し、また、ヒヤリハットについては寮会議で原因の分析、確認、対策を意見交換して、事故防止に努めるようにしている。リスクマネジメントの研修は、今後開催するよう検討している。

② 38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b
<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	○
<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	
<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	○

【コメント】

看護師を中心に、感染予防に取り組んでいる。インフルエンザに関しては、流行時期の1ヶ月前に、こども会議で周知するようにしている。入所時には保護者から予防接種の同意書を入手して、子どもたちに説明をして予防接種を毎年全員が行っている。コロナ感染症は、時期により対応方法に変更があったため、それに合わせて職員の動きなどを決めている。寮内でコロナが蔓延した時期もあったため、子どもたちはしっかり手洗い、うがいなどの感染対策を励行している。共有スペースでは、ペーパータオルを使用している。

③ 39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的にしている。	b
<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	

<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

月1回、いろいろなパターンで防災訓練を実施している。施設は山の斜面の横にあり、また、海にも近いので、地震時の崖崩れや津波を想定した訓練に重きを置いている。防災委員会を置き、備蓄品については栄養士が管理をしている。外出時にスマホを使用している子どもには、各フロアの共用スマホで安否を確認することにしている。近隣地域(町内会)の方たちとの関係が良好なので、通学途中に災害に合った場合は、住民に声をかけるよう指導している。子どもたちのカバンに「しらかば子どもの家」のプレートをつけている。BCP(事業継続計画)はきちんとしたものがないため、今年度中に作成する予定である。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	

【コメント】

標準的な実施方法は「子どものかわりハンドブック」を作成して、職員に周知している。以前は内容の見直しを行っていたが、ここ数年そのままになっているため、今年度内に内容の見直しを行う予定である。必要時には寮会議で実施方法を見直しているが、ハンドブックには反映していない。子どもとの関わりについては、外部研修に参加して研鑽している。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

子どもたちの「みんなのルール」は、年に1回、子どもと一緒に見直しを行っていたが、ここ数年その機会がない。子どもたちから出る案は寮ごとに検討し、迅速に対応しているが、「みんなのルール」には反映していないため、内容を修正する予定である。子どもたちの自立支援計画は、年2回、児童相談所と連携して見直しを行っている。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。		
①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	<input type="checkbox"/>

	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員（種別によっては組織以外の関係者も）の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○

【コメント】

自立支援計画書は、施設長や主任、担当職員、心理士、児童相談所のケースワーカーと心理司が出席して策定している。また、対応が困難なケースについては、寮職員が現場の意見を伝えたり、看護師も参加する場合もある。それぞれの支援ケースの対応など、職員同士の話し合いの場をもっと増やしていきたいと考えている。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容（ニーズ）等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【コメント】

自立支援計画は、年2回、児童相談所の職員とともに、評価、見直しを行う体制を整えている。子どもたちの意向を確認し、長期や短期の目標を立て、生活状況や家族との関係を確認して、計画に反映している。振り返りができる子どもは、子どもの声を計画に取り入れている。内容は各寮で周知し、また、職員会議でも報告している。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの閲覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【コメント】

日々の子どもの記録は、パソコンの共通サーバー内の「日誌」に、個人毎に記録している。業務の情報なども、共通サーバーで確認できるようにしている。連絡事項などはグループウェア（業務の効率化を推進するためのソフトウェア）で、毎日の予定などは「日誌」に記載して、それぞれの部署で内容を確認している。日々変化が生じる業務内容に対し、当日の申し送りの内容が把握されていないことがあるため、もう少し簡単に情報を確認できる仕組みの導入を考えている。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○

<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	
<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	

【コメント】

児童相談所からの書類や、医療関係や学校などに書面で提出している書類は、個人のファイルに保管している。日誌はサーバーの中に保管し、毎月印刷をして、決済後にファイルに保管している。ペーパーレス化の取り組みを考えており、今年度中に環境を整える予定である。個人情報の保護や取扱いについては、入職時に誓約書を提出している。また、就業規則にも規定している。

内容評価基準（24項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護	第三者 評価結果
① A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	b
<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	
<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	
<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	
<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。	○

【コメント】

子どもの権利擁護は、児童養護施設の基本であると考えている。施設として、マニュアルは作成していないが、子どもの権利については、国作成の「ハンドブック」や、県が作成した「養育ブック」を活用している。日々の子どもの生活の中では様々な対応に追われ、権利擁護についての話し合いや研修ができにくい現実があり、今後の課題としている。

(2) 権利について理解を促す取組	第三者 評価結果
① A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。	b
<input type="checkbox"/> 権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。	
<input type="checkbox"/> 子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	○
<input type="checkbox"/> 職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	
<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	○
<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。	○

【コメント】

入所時には、児童相談所のケースワーカーが「権利ノート」を使い、子どもの権利について説明している。今年度、「権利ノート」に改正があり、子どもたち一人ひとりに、児童相談所のケースワーカーが内容を説明している。今まで自分の思っていることを言うことができなかった子どもが多いことから、日々の生活の中で、思うことは言うといいこと、自分の好きな物を選んでいいことなど、職員が話している。子どもたちの希望することは、できるだけ受け入れて実行している。すぐに対応できないことは理由を話し、できるようになるまで待つてほしいことを伝えている。

(3) 生き立ちを振り返る取組	第三者 評価結果
① A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生き立ちを振り返る取組を行っている。	b

<input type="checkbox"/>	子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生い立ちの整理に繋がっている。	<input type="radio"/>

【コメント】

自分の生い立ちを知ることは大事なことであり、子どもの状況や家庭の状況などを考慮しながら、慎重に行わなければいけないと捉えている。伝えるタイミングは、児童相談所と話し合いの上決めている。他の子どもの母親との面会や外出を見て、「いいな、僕はどこにいなきゃいけないの」など、本人から言葉が出た時には「今、そう思っているんだね、児童相談所の人に来た時に伝えてごらん」と答えている。小学生でライフストーリーワークを行い、生まれてからの自分の生い立ちを、年表のように冊子にまとめた子どもが複数いる。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

①	A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
<input type="checkbox"/>	体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがとられている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

暴言や暴力など、子どもが不安定になることがあり、職員に向ってくることもある。職員に手をあげたりすることもあるが、あくまでも子どもの話を聞く姿勢をとっている。職員を交代して対応したりしながら、子どもの気持ち落ち着いてから話を聞くようにしている。職員から子どもに対しての不適切な関わりはない。子どもが今どういう気持ちなのか、子どもの声を聞くことを基本としている。

(5) 支援の継続性とアフターケア

①	A5 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	b
<input type="checkbox"/>	子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるように配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

児童相談所から入所依頼があると、ケースワーカーが施設に来て、情報を提供し、施設職員と入所の検討を行っている。入所が決まると、子どもに見学に来てもらい、生活の様子を説明している。子どもの好きな物や興味のあるものを確認し、入所前に衣類や日用品を担当職員が購入している。入所当日は、前もって聞いておいた好きな食べ物をウェルカムメニューとして用意し、寮で迎え入れている。入所してからは、担当職員と一緒に不足する物を買に行き、職員との関係作りを行いながら、安心して生活を送ることができるようにしている。

②	A6 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	○

【コメント】

園での日々の生活を穏やかに送ることができるよう支援している。子どもたちが、生活のリズムや心の平穏を取り戻すことができるよう働きかけている。未就学児や小学校低学年の子どもは、部屋の片づけや掃除を職員と一緒にを行い、中学生になると自分の物が管理ができるよう、自立に向けた支援を行っている。小遣いなども自分で小遣い帳を付けて管理できるようにしている。高校生になると、自分の食器は洗い、自分の衣類は洗濯して整理している。また、自分で食べたいラーメンやお菓子を作ったりしている。自分でできることを増やし、卒園後の生活を見据えた支援を行っている。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	A7 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	b
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	○

【コメント】

職員一人が子ども2~3人を担当する担当制をとっている。子どもの生育歴や入所の経緯については、全職員が把握して支援に取り組んでいる。複雑な課題を抱えた子どもたちは、大人から愛情を受けたことがなく、職員のやさしさを素直に受けることができないことが多い。そのため、感情の爆発が職員に向うことがあるが、職員は子どもの気持ちを受け止め、思いを聞くことを第一として支援している。時には、職員に手をあげたりする行為があるが、今の気持ちを受け入れていく姿勢を崩さずに支援している。

②	A8 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活をいとなむことを通してなされるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	○
	<input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	○

	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別に触れ合う時間を確保している。	
	<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	○

【コメント】

子どもに合ったバランスの良い食事を、厨房で調理して提供している。コロナ禍では、各寮でご飯を炊き、副食は厨房で作ったものを寮に運び、寮内で食事をしている。子どもたちからのリクエストメニューは、意見箱以外に食事に関する要望箱を設置して聞き取り、献立に反映している。子どもたちは、寮内で、たこ焼きなどのクッキングを楽しんだり、担当の職員と一緒に外食に出かけている。小さい子どもたちは、寝付くまで職員が寄り添って安心して眠ることができるようにしている。大きい子どもは、週末は少し遅くまで起きていてもよいこととしている。小さい子どもの入浴は職員が手伝いながら、小学高学年になると一人で入浴するようにしている。

③	A9 子どもを信じて見守るという姿勢を大切にし、子ども自身が自らの生活を主体的に考え、営むことができるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	

【コメント】

月1回、フロアごとに「こども会議」を開き、施設からのお知らせや、子どもたちから上がった要望への対応方法を伝えたりしている。「こども会議」では、土・日曜日や、夏・冬休みの過ごし方などを話し合い、買物やプール、宿泊旅行などにつなげている。小さい子どもが洋服のボタンをかける、靴下をはくなど、自分でできるようになった時には、子どもと一緒に喜び合っている。子どもたちとは、できるだけ一対一の時間を作りたいと思っているが、すべての子どもに目を向けていると、なかなか作ることができない現実がある。

④	A10 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	
	<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	○	

【コメント】

子どもたちの多くが特別支援級に通い、集団に馴染めない子どもが多い。学習系の職員を配置し、また、複数の学習ボランティアをお願いし、小学生は週3回、中学生は毎日、学習支援を受けている。高校受験のため、塾に通っている子どももいる。中学生は運動や茶道、音楽、ボーリング部などの学校の部活に入り、大きな大会に出たりしている。オンライン塾を活用し、学習している高校生もいる。外では駐車場で遊ぶことが多いが、近くのペリー公園や海岸での磯遊びなどを楽しんでいる。県内児童養護施設の卓球大会やマラソン大会などに参加し、今はマラソン大会に向け練習中である。

⑤	A11 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 発達状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	○

【コメント】

町内会や子供会に加入し、地域のお祭りやイベントなど、地域行事にできるだけ参加している。地域の人たちとの交流から、人との関わり方や常識などを身に付けるようにしている。小さい子どもは、お店に買物に行ったときは騒がないこと、中学生は歯医者に一人で通院できるよう働きかけて、社会での生活が一人で行えるよう支援している。

(2) 食生活

①	A12 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	b
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気ですぐに食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気ですぐに清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	○

【コメント】

子どもたちのリクエストを献立に反映し、喜んで食べてもらえるようにしている。また、ハロウィンやクリスマスなどの行事食を手作りして、見た目もかわいい料理を提供し、子どもたちに喜んでもらっている。食生活委員会があり、月1回、食事の状況や希望などの話し合いを行っている。地域のレストランやホテルからの招待もあり、子どもたちは様々な料理を楽しみ、社会のルールを学んでいる。栄養士が協力して、寮内でピザ作りなどのクッキングも行っている。

(3) 衣生活

①	A13 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	○
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	○
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	○
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現できるように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	○

【コメント】

身体の成長に合わせ、職員と一緒に買物に行き、好みの衣服を選んでいく。高校生は一人で買物に行き、選んでいくことが多い。衣服の着替えは毎日行い、清潔な物を着るようにしている。小さい子どもは、職員と一緒に衣服の管理を行っているが、大きい子どもは、自分の筆筒で管理や整理をしている。入学式や卒業式などは、園で準備したものを着用している。七五三はレンタルの着物を着て、写真撮影している。ホテルやコンサートの招待を受けた時には、子どもたちはおしやれをして出かけている。

(4) 住生活

①	A14 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	○
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損個所については必要な修繕を迅速に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	

【コメント】

2階の男子寮と、3階の女子寮に分かれて、子どもたちは生活している。小学低学年以下の子どもは3～4人の部屋で、他の子どもは、すべて個室を使用している。小さい子どもの部屋も、それぞれベッドがあり、自分のスペースを確保できるようにしている。子どもたちは、好きなぬいぐるみを置いたり、アイドルの写真を貼ったりして、居心地の良い空間を各自が作り上げている。居室は曜日を決めて、掃除や片付けを行っている。リビングやトイレ、浴室などは、職員が毎日掃除をしている。子どもたちの食器は今までワンプレーットの食器であったが、茶碗や箸など、自分専用のものを揃えて使用している。他の子どもの部屋は、その部屋の子どもへの許可なく入らないルールを決めている。

(5) 健康と安全

①	A15 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	○

【コメント】

子どもたちは毎朝検温し、鼻水や咳、顔色などで健康状態を確認している。少しでも異常があれば、看護師に連絡して、受診の判断を仰いでいる。精神科に定期的に通っている子どもや、こども医療センターにかかっている子どもなど、医療を必要とする子どもは多く、各医療機関と連携している。薬の管理は看護師が、投薬は寮の職員が行っている。予防接種は、嘱託医が行っている。学校の健康診断で治療が必要な場合は、施設で対応し、結果を学校に報告している。

(6) 性に関する教育

①	A16 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者との付き合いができるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	○
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢・発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	

必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。

【コメント】

児童相談所や学校と連携を取りながら対応している。性に関する学校での授業をきっかけにして、「今日はどんな話があったの？」と子どもに問いかけ、理解度を確認したり、また自分の身を守ることの大切さなどを伝えている。小さい子どもには、男の子と女の子の違いなどを入浴の時などに話をしている。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A17 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮もやっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけて出そうと努力している。	<input type="radio"/>

【コメント】

小さなことで感情が高ぶり、パニックになる子どもは、自室にてクールダウンをして、時間を置いて落ち着いてから、その時の気持ちを聞いている。子どもの背景を理解しながら、暴力は許さない、してはいけないことを常に伝えている。

②	A18 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども間の性的加害・被害を把握し適切に対応している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもの気持ちを聞くことを大切にして、子ども同士のトラブルは、お互いの気持ちを聞き、お互いがごめんなさいと言えるように関わっている。暴力はいけないこと、暴力をなくす支援を行っている。子どもたちが相手の気持ちを思いやることができるよう支援している。寮会議では、同じような行動を繰り返す子どもの検討を行っている。

(8) 心理的ケア

①	A19 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	<input type="radio"/>

児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。

【コメント】

臨床心理士を配置している。心理士は問題のある子どもの面接を親子訓練室などで行って、子どもの状況を確認している。また、寮会議で子どもへの対応についてアドバイスを行っている。現在、外部のスーパーバイザーは関わっていないため、専門的なスーパービジョンは実施していない。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

① A20 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。

b

静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別ペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。

学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。

学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。

忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。

障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。

【コメント】

小学生は週3回、中学生は毎日、学習ボランティアに見てもらっている。高校受験のために、地域の塾に通っている子どももいる。学習ボランティアは児童相談所から派遣されている。学習係を置き、学習ボランティアと時間や子どもとの調整を行っている。特別支援級や特別支援学校に通っている子どもが多いため、学習も大事ではあるが、情緒の安定を第一に考えたいケースが多いのが現状である。

② A21 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。

b

進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。

進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。

就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。

進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。

学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。

高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。

高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。

【コメント】

中学3年生は、高校進学の前に、本人とどうしたいかを話し合う機会を作っている。高校2年生くらいからは、卒業後の自立した生活を、職業指導員と話し合っている。児童相談所や学校、職業指導員の連携のもと、生活面や金銭面の課題を本人に伝えながら、本人が自己決定できるよう支援している。

③ A22 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。

b

実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。

実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。

実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。

職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。

アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。

【コメント】

工業高校では職場実習を行っているので、食品関係や工業関係、機械関係など、自分の興味のあるものを体験している。特別支援学校に通っている子どもの中には、学校からの職場実習を経て就職した子どももいる。高校生にはアルバイトを奨励しているが、面倒でやりたくない子どもや、能力的に難しい子どももいる。自分でアルバイト先を探せない子どもは、職員と一緒に探したりしている。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

① A23 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。

b

施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。

○

家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。

面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。

○

外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。

○

子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。

○

【コメント】

家庭支援専門相談員は配置していない。児童相談所が家族と連絡を取り、いつ面会をするかなど、担当職員が対応している。授業参観や運動会など、学校から案内が届くと、児童相談所のケースワーカーに連絡して、家族連絡の可否を確認してから保護者へ案内している。子どもと保護者との関わりは、児童相談所と連携して取り組んでいる。

(11) 親子関係の再構築支援

① A24 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。

b

家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。

面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。

児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。

○

【コメント】

児童相談所で、保護者の養育力や家庭環境の調整ができた時は、家庭引き取りの準備を始めている。まず面会から始め、外出、外泊などの段階を経て、家庭引き取りにつなげている。外泊の段階で、コロナに罹患し、そのまま家庭引き取りになった子どももいる。家族関係が良好になり、家庭引き取りになった子どもは少ない。